

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和元年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	東京農工大学	整 理 番 号	1 8 0 6
プログラム名 称	「超スマート社会」を新産業創出とダイバーシティにより牽引する卓越リーダーの養成		
プログラム責任者	梅田 倫弘	プログラムコーディネーター	宮浦 千里
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農学分野と工学分野の融合領域において、相互に補完するようなカリキュラムの設定や人材交流に着手しており、既に講義や海外派遣などを開始していることから、卓越大学院プログラムとしての最初のステップは、順調に踏み出したといえる。 ・ 農学分野と工学分野の各々から選抜した学生は、相互の研究分野に高い関心を持っており、融合領域を創り出そうとする高い意欲も感じられる。 ・ 新産業を創出できる卓越したリーダーを目指した講義やワーキンググループでの議論も実施されているが、現状では導入科目のみとは言え、過去の成功体験を聞く内容に留まり、本プログラムにおいて掲げるコンピテンシー獲得に向けた工夫が十分ではない可能性も懸念される。 ・ スタートアップ資金の支給や単位互換など学生に対する種々の支援策が実施あるいは計画されているが、学生への周知が不足しており、または理解を得られておらず、十分に活用されていない。また、一部の仕組みについては、海外でのインターンシップや留学などの実績を卓越プログラム科目の一部として認める単位互換制度が整備されているが、具体的な運用についての周知徹底などの改善が必要と思われる部分もある。 ・ もともとは理系博士女子学生の養成を特色の一つとした構想であるが、ダイバーシティを全般的に考えるという方向性を改めて明確化し、それに沿ったカリキュラムを展開している。 ・ 博士課程学生の就職を支援する仕組みを構築するため、就職情報関連の民間企業との連携も開始している。 <p style="text-align: center;">【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本プログラムにおいて新しい融合領域でのカリキュラムは開始しているが、それに対して既存の農学分野と工学分野それぞれの領域における組織や学問領域の変革は、現状ではみられない。各分野の教員には、今後変革をすべきという意識はあるとのことなので、今後、制度上の学位プログラムへの移行も視野に入れ、新しい学問領域の創出に向けた取組が望まれる。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新産業を創出するための議論の中で、学生が異分野の研究内容に触れて気付いた課題やテーマを丁寧に拾い上げ、加速・推進して成果に結び付けるためには、教員のきめ細かい指導が必要である。いくつかの規範事例になるようなテーマについては、特に指導の強化をお願いしたい。また、教員側の意図した方策が正しく学生に伝わり効果を上げているかについて、学生の視点からモニタリングを行うなど改善につなげるような仕組みの検討をお願いしたい。 ・ 今後開講する「グローバル卓越リーダー概論」「国際交流ワークショップ」等のPBLやケーススタディによる科目については、履修生がイノベーション創出の実践力を 			

着実に獲得することができるよう、具体的なテーマ設定とカリキュラム運営について更なる検討が望まれる。

- スタートアップ支援や単位互換等、本プログラムにおける新しい制度に対する学生の理解が不十分であるように見受けられる。文書を配布することによる説明も必要であるが、学生ひとりひとりに対してオーダーメイドの支援ができるようなメンターの運用が必要である。
- 学位の質を保証するための QE の審査基準が学生に示されていないことから、審査基準を早急に明確化し、教員や学生への周知が必要である。
- 「プログラムとして設定する検証可能かつ明確な目標」として原著論文数を設定することが必要である。
- スタートアップ資金を学生に支給する制度の運用に当たり、支給する年次や使途、要件等の具体的な内容について、早急かつ詳細な検討を要する。